



発行日：平成30年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第47回川部会WGを開催しました！

7月27日(金)に第47回川部会WGが開催されました。今回のWGは、矢作川本川で国交省、愛知県、豊田市の各行政機関が取り組んでいる河川環境関連の調査や河川整備対策について、これまでの取り組みによる効果、得られた知見、また今後の整備予定等について意見交換を行いました。

日時：平成30年7月27日(金) 15:30～18:00

会議場所：豊田市崇化館交流館

参加者：19名(事務局含む)



◆主な活動内容

1. 本日の話し合いでの話題提供について



■阿摺ダム下流アユ生息環境改善実験について～ 話題提供者：豊田市矢作川研究所 山本研究員～

○矢作川のアユについて年々生息数が減少しており、その大きな要因はアーマコート化した河床環境にあります。

○阿摺ダムの下流に矢作ダムに堆積した礫を活用して、アーマコート化する前の柔らかな河床を創出し、アユの行動を観察する取り組みを実施しています。

○観察の結果、実験区間内でアユの生息数が増加し、アユが餌とする付着藻類の生息量も増加しましたが、なわばりを形成するアユは少なく、今後どのような環境条件であればなわばりアユが増加するかを引き続き観察します。



■矢作川総合土砂管理について ～ 話題提供者：国土交通省豊橋河川事務所 ～

○総合土砂管理計画の策定に向けて、技術的な課題を解決するための課題を整理するとともに、「目指すべき姿」に向けて、一次元河床変動計算や現地実験より、土砂対策量(排砂量、掘削量など)を検討しています。

○課題解決に向けた取り組みの一つとして、平成28～29年度に給砂装置(ベルトコンベア)を用いた土砂投入実験を実施しました。



■矢作川古崩水制工について～ 話題提供者：愛知・川の会 近藤会員～

○矢作川の環境への取り組みは全国でも有名であり、矢作川水質保全協議会の発足・活動をはじめ、様々な活動を率先して実施してきました。

○愛知県では平成2年から矢作川の環境整備計画の策定に向けた取り組みをはじめ、平成3年には多自然型川づくりの一環として、コンクリートを使わない巨石の水制工を古崩地区に整備しました。

○愛知県でもアーマコート化した河床環境を改善するための取り組みとして土砂投入実験を実施しましたが、効果は全く分からなかった経験があります。



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(●意見 ▶回答)

- 数センチよりも粒径が小さいマサ程度の土砂はほとんどないという状況でよいか。出水時にそのような土砂が石の表面をあらうようなクレンジング効果があるとみてよいか。(鷲見)
 - ▶ 出水後にきれいになっているところがあるが、それが砂による効果か、水だけによるものなのかメカニズムが解明できていない。(山本)
- やわらかな河床とおっしゃられたが、どのような状況であるか？それを望ましいと思っているか？(光岡)
 - ▶ 出水時に小さな石から大きな石も動いていく状況をイメージしている。(山本)
 - ▶ 過去に漁協が作成した資料で、昔の矢作川の川底は柔らかくて、川の中に人が立っていると、足周りかえぐられて、体が沈むような感じになると記載されている。(内田)
- やわらかい河床というのは、いつ頃の年代のことを言っているか？(河瀬)
 - ▶ 昭和40年代であり、矢作川ダムが完成する前は川の中に樹木はほとんどなかった。昭和47年にダムが完成してから河床が低下し、砂利採取もなくなり、滞筋が固定し、樹林化が進行してきた。(加藤)
 - ▶ 矢作ダムが完成して、すぐに環境が悪くなったわけではなくて、少し時間が経ってから環境が悪化してきたというのが、一般的な知見である。(内田)
 - ▶ 昭和55年ごろまで柔らかい環境が散見されていた。矢作ダムが完成するまで洪水が頻繁に起きてきたが、ダムが完成してから洪水がほとんど無くなった。東海豪雨を除くと、昭和47年7月の災害以降、近年では大雨が降る機会も減っている。(小澤)
- 今年度の研究成果について提言としてとりまとめるということであるが、どのようなものか？(内田)
 - ▶ 川の管理者に提出することを考えている。対象は中部電力や愛知県である。上流から石が流下しないことで、アユが定着しないということをもっと共通の認識としたい。(山本)
- 総合土砂管理計画を作成する際に他の計画との位置づけはどのようなものか？川の中の形についても関係してくると考えられるが、河川整備計画との関係はどのようなものか？(鷲見)
 - ▶ 上下関係から言えば、河川整備計画が上位計画となる。河川整備の基本計画であり、これを守ったうえで土砂をどのように流下させるかというのが総合土砂管理計画になる。河道内でどの程度の土砂量が必要なのかを検討しながら、計画に反映している。(事務局)
- 土砂供給実験で下流側に変化がなかったという結果について、良かったという認識か、変化ないので意味がなかったという認識か？(光岡)
 - ▶ 愛知県でも土砂供給実験を行ったことがあるが、全く成果が得られなかった。ある程度のフラッシュで土砂が流下して、瀬や淵ができたというのが成果になるのではないか。(近藤)
 - ▶ 総合土砂の観点からは上流に堆積した土砂を適正に水の力をもって、流すことができたというのが成果という認識である。(事務局)
- 実験で流した程度だと変化がなかったということであれば、瀬や淵を作るならば、もっと流す必要があるのではという認識である。(光岡)
- どれぐらいの土砂が剥離効果を与えるかという話がある。どれぐらいの流量でどれぐらいの土砂が流れて効果があるのかというのを流量と土砂の両面からどうコントロールするのかが検討する必要がある。(鷲見)
- これまで矢作川関連の会議には愛知県の豊田加茂土木事務所が必ず参加していたので、今後の情報共有のためにも参加を希望する。(近藤)

今後の流域圏懇談会の予定



■第48回川部会WG

日時：平成30年10月(予定)

内容：家下川モデル 上下流ウォーキング(予定)

※詳細日時はMLにて決定します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本 調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

